

# 一般質問



15名の議員からの一般質問があり理事者の考えを問いました

(一般質問について1人3問までの掲載としているため4問目以降については、要旨のみ掲載しています)

## 町財政健全化プランについて

奥村 喜美男 議員

### 問

町長は、限られた財源の中で最大の行政効果が得られるよう、平成十八年度の予算編成をしたと述べました。

合併しなかったら、旧町とも予算を組むことができなかったのではないか。

合併協議会での財政シミュレーションによると家庭の貯金に当たる財調基金、減債基金等を繰入れても、旧三町とも平成十七年度から赤字になると推計されていたからです。新年度の予算編成に当たっては、国の三位一体改革に伴う交付税等の削減や医療費、介護保険給付費の増加、公債費の増大など予測以上の要因はあるものの、大きくは突発的な職員給与の削減という犠牲を強いた上での綱渡りの予算編成であったと言わざるを得ないし、危機的な財政になっていると思います。

この状況は、今年度一年限りではなく、来年度は更に厳しくなると考えるが、町長の具体策を伺います。

### 職員の危機意識、 行革意欲を高める

#### 答・町長

まちの財政は、自主財源が少なく脆弱な財政基盤に加えて、国の三位一体改革に伴う地方交付税や国庫補助金などの見直し、景気低迷による地方税の落ち込みなど町財政への影響は深刻な状況です。

来年度も町財政の見直しについては決して明るいものではなく、本年度以上に厳しいものと認識をしています。

財政全体に占めるウエートの大きなものは、旧町が行ってきた事業における公債費の償還であり、この数値は全体の二〇・四%となっています。

新町建設計画についても、北海道との事前協議、合併特別区協議会の審議を経て、議会との協議の上検討を加えていかなければ財政の健全化は図っていけないだろうと認識しており、更に自主健全化計画を策定し健全化に努めていきたいと考えています。

このような状況下にあっても、限られた財源のもとで、保健・福祉・医療・産業の振興など多くの行政課題に迅速に取り組まなければならないと思っており、そのためには自らが無駄を省き、経常経費を削減し、起債発行額の抑制を図りながら、極めて厳しい財政状況を乗り切るため、職員の危機意識、行革意欲を高めたいと考えています。

#### 問・再質問

今定例会に、職員給与の減額条例を提案しているが、これは十八年度限りなのか。これは職員の士気の低下を招くと思うので、計画性のある労使協議が必要と考えるが、併

## 議員協議会での町長の発言撤回と謝罪を求めて

せて伺います。

町長は、行政改革集中プランを策定し総合的に財政健全化を図るとし、職員の危機意識、改革意欲の高まりを求めているが、それだけではこの先限界があり、官民一体となった町財政健全化プラン策定検討委員会を立ち上げるべきだと思います。

町財政健全化プランの中に定住、移住推進事業の強化、雇用機会の拡大のため、就業・就職サポートセンターの創立や国の示している生活習慣病の予防は医療費の削減につながることから、予防医療に真剣に取り組むべきと思うし、国直轄事業の導入をはじめ産業振興の精力的な支援をし、

町税の増収を図る方策を打ち出し、質の高い住民サービスを提供できる町政執行を切望します。

### 答・町長

職員にはこの状況を十分理解した上で応じていただけたものと思っており、組合の皆

様とも十分話し合いをさせていただきました。この措置は十八年度限りであります。十九年度年度予算編成する上で、推移を見ながら改めてまたご相談を申しあげたいとしているところであります。

この健全化プラン等につきましても、議員ご提案のありました部分については今後検討し、できるだけ町民の皆さんのご理解をいただけるような行動をとってまいりたいと考えています。

これまでいろいろな形で行政サービス、補助金の配分などしていましたが、きつちり精査させていただき、確実に投資効果が得られるような財源の使い方をしていかなければ、この状況を乗り切ることが難しいと考えています。

サポートセンターの創設、生活習慣病の予防対策、国道の直轄事業の導入などにも真剣に取り組んでまいります。

いずれにしても、めりはりのある質の高い町政運営をしていかなければならないと考えています。

### 問

町長は、二月二十八日の議員協議会で、「せたなの医療を考える会」の開いた集会を非難すると共に、職員の奥さんがしたことは遺憾である。

また、そういう趣旨の集会に数人の議員が賛同していたことは残念であると発言されました。

これは、職員への圧力であり、お母さん達に対する侮辱、そして議員活動に対する冒涇であります。

医科診療所の医師が三月末で全員辞められるという話を聞いた子育て中の若いお母さん達が危機感を持ち、せたなの医療がどうなるのか、純粋な気持ちで町長にお聞きしたいの思いからこの会を開いたと私は聞いています。

しかし、町長は参加できないと言い、区長にも断られ、議会代表の議長にも出てもら

小平 久 議員

えませんでした。こうした町民活動がどうして非難されなければならぬのか。

むしろ、参加要請を断って説明をしなかった町長が非難されるべきと思います。

### 言葉の表現に

配慮がなく反省している

### 答・町長

瀬棚区の診療所問題で、議員及び町民の皆様は大変ご心配をおかけしていることについてお詫び申し上げます。

瀬棚診療所では、無断で二月末での入院、夜間診療及び三月十八日以降全ての診療を休止する旨、一方的に町民へ周知されました。

これに対し、早速三月三十一日までの外来診療を続けるよう指示したところであり、議員にもこのことを報告し、併せて四月以降についても診

療を続け、町民に心配かけることのないようお話を申しあげたことは議員もご承知のことだと思います。

しかし、二月十九日のせたなの医療を考える会の集会では、一方的な考えのもと議論が進められたとのことでありました。

このような状況下で行政の長としてやるべきことは、最悪の事態、つまり診療所の休止だけは避けなければならぬということでありました。

新年度の医療の取組みについて、職員を通じ知りえる立場にあることから、議員協議会での発言については正直そう思ったところであります。

議員おっしゃるように、言葉の表現として多少配慮が足りなかったということで反省しています。

### 問・再質問

ここに至るまで多くの町民や利用者から、不安でたまらない、心配で眠れないという電話や相談があつて、私も

町民として医師の慰留のお願い署名活動や、一議員として今後の対応を瀬棚区の議員に働きかけてきました。

二月十九日の集会には、約百七十人の参加があったことは、地域医療がいかに大きな問題であったかということの証明であると思っています。

北檜山区や大成区からも議員や町民が大勢駆けつけてくれたこのことを町長はしっかりと受け止めていただきたい。

二月十七日の議員協議会で町長は、昨日まで吉岡医師の慰留を続けてきましたが、残念ながら慰留することはできませんでしたと報告しました。

この辞表撤回は、吉岡医師の診療所への思い、そして、せたなの医療を考える会のお母さん達の活動に胸を打たれたと私は聞いています。

改めて発言の撤回と謝罪を求めます。

## 答・町長

先ほども申しあげたとおり、私の言葉の表現として多少配

慮が足らなかったと反省しています。

## 医科診療所混乱の責任について

### 問

一月十八日の町長と村上所長の話し合いの中で、次の三点が財政難のため受け入れられなかったというのが辞表の主な理由でした。

①研修医の受け入れ、②インフルエンザ予防接種の実施、③肺炎球菌ワクチンの実施、この三点がなぜできなかったのか、検討する余地もなかったのか理解できません。



この問題は、一人の医師の辞表だけでなく、せたな町の大きな問題として残りました。利用者やお年寄り、子供を持つ親に不安を与え、職員の辞表問題や臨時職員を不安に陥れています。

診療所の取組みは、予防医療を進め、医療費の削減、国保税の負担軽減等財政の負担軽減に通じるものです。

北檜山国保や大成国保と取組みの違うところを認識せず、一度に平準化しようとしたところに無理があったのではないかと。

今回の混乱は、大変な失態であり、町長の責任が問われます。

ています。

## 医師確保に向け 精力的に取組む

### 答・町長

村上医師の辞任は、自身が提案している予防医療等に関する取組みなど、それ以外のところに大きな要因があったと感じています。

村上医師が提案した三項目についての取組みについては、①財政負担が伴う長期の研修医の受け入れは、現在の財政状況から大変困難であると考えており、短期の研修については、過去に実施しているように、今後も制度等を活用し取り入れていきたい。

②インフルエンザ予防接種は、旧瀬棚町において六十四歳以下の方々からも経費の一部を助成し、任意の保険事業として取組んでいましたが、今年度からは中学生以下を対象とし、せたな町全域で実施すること考えている。

③肺炎球菌ワクチン接種は、旧瀬棚町では六十五歳以上の

六十五%以上が接種しており、今後、せたな町の高齢者に同様の負担の中で行うのは財源等も含めて困難であると考え調整する必要があることから、この時点で保留とさせていたが、検討した結果、町の助成を一人千円とし実施することとしました。

この事業は、一生涯に一度の接種しか認められていない任意の事業であることから、本人の意思、医師の判断のもとに取組んでまいりたいと考えています。

今回の村上所長を初め職員の退職等に関し、診療業務の縮小は残念であるが、最小限の人数で対応せざるを得ないと考えており、そんな中、吉岡医師の意思により引き続き六カ月間勤務していただけることになりましたことに対し、厚くお礼を申し上げるところであり、今後も北檜山国保病院の応援体制のもと、医師の確保に向け精力的に取組んでまいりたいと考えています。

一度に平準化すること無理があったということですが、



私は町長として、新せたな町の町民ができるだけ等しく行政サービスを受けることができるようにすることが行政のあるべき姿だと考えています。

#### 問・再質問

混乱を招いた原因の主なものは、研修医師の受け入れと予防医療の考え方の違いです。それを、三月三日の行政報告では、新聞報道されたように、村上所長の辞任については、新町の医療構想で民間病院を基幹とする所長の提案が合併合意で認められなかったことに起因する政治行動と言われています。

これは、一月三十一日から二月十七日まで町長が私たちに説明してきた内容と全然違います。

こういうことが今後の診療所運営や医師確保に影響すると思います。

村上所長と一緒に予防医療に取り組んできた吉岡医師が六ヶ月間残ってくれることになりましたが、吉岡医師の期

待に應えるために、一日も早くもう一人の医師確保と入院体制を整える、そして予防医療の体制に協力することが大切だと思います。

#### 答・町長

それが町民の医療不安解消になるのです。

辞任問題については、先ほど答弁しておりますが、直接医療問題とは関係ないということ、所長自信が言っておりますように、この要望が通っても通らなくても辞めるつもりでいたということからお分かりいただけると考えております。

所長との話し合いが大きく影響しているということですが、予算編成の真つ最中であり、歳入不足から、安易に全てやれますよという状況ではなく、予算の状況を見ながら最終的に判断したいという考えを伝えたところです。

病院の対応の関係で、今の時期、医師を確保するというのはたいへん難しい時期です

が、全精力を傾けて確保する努力を続けていきたいと思えます。吉岡医師については、今後予防医療も含めて継続してこの地域で地域医療に携わっていただけるように、総合的に応援してまいりたいという気持ちでいます。

#### 医科診療所の

#### 運営方針を明確に

#### 問

医科診療所は、平成十一年に設立され、医療、保健、福祉の核として運営されてきました。

以来、町民の医療、保健、福祉のレベルは格段に上がり、多くの町民に喜ばれてきました。

中でも予防医療の取組みは多くの町民に理解され、全国的に評価されるまでになりました。

その医科診療所が医師をはじめ医療スタッフの多数が辞職または退職予定という異常事態になっています。

入院患者も扱えない状況は、

その存在さえ危ぶまれる状況に陥ったことは遺憾の極みであります。

医師二名体制で入院のできる体制をつくり直すことが急務でありますし、なし崩し的に医療体制の縮小は許されないのであります。

利用者と町民に医科診療所の構想を示すべきと考えます。

#### 医療対策審議会等で

#### 議論を重ねていく

#### 答・町長

医師二名体制の確保は、全力で取組まなければならないものと思っています。

当面、瀬棚国保医科診療所の運営は、外来診療については医師一名体制のなか診療業務を行っていきますが、北檜山国保病院とも連携をしながら医師の応援体制をとっていきたいと考えており、入院病棟については医師等の体制から休止させていただくこととし、北檜山国保病院への受入れ体制を整えていきます。

夜間及び休日の救急患者の

受入れについても三月十三日から北檜山国保病院で対応させていただきたいと考えており、訪問診療や通所リハビリについては、今までどおり行っていく予定であります。

この措置については、医師一名体制の暫定的な要素であります。

今後は、せたな町の医療施策をどう進めていくかについては、医療対策審議会等で議論を重ね、解決していかねればならないと考えています。そのようなことから、なし崩し的な医療体制の縮小でないということでご理解願います。

#### 問・再質問

医師と患者の信頼関係は、大変重いものがあり、命を委ねて安心できる体制が壊されてしまった、このことに三月十日の地区懇談会で町民が激怒していたのです。

入院病床を何とか復活して、安心して暮らせる土台が崩されたという町民の声がたくさ